

## 五十嵐ゆうこの米国小売業最新レポート

2022年3月4日

### Whole Foods introduces Social Impact Report Whole Foods が社会にインパクトを与えた報告書

米国、カナダそして英国で約 500 店舗を展開するナチュラル&オーガニックの専門スーパーマーケット Whole Foods は、2021 年に食料救済・再分配プログラムに約 3,000 万食を寄付し、地元生産者貸付プログラムを通して小規模生産者、ローカル生産者に 50 万ドル以上の資金を授与していたことが、同社の Social Impact Report(社会影響報告書)により明らかになりました。



食品小売業での農薬使用についてその是非を評価する団体 Friends of the Earth が発表した「Bee-Friendly Retailer Scorecard(蜜蜂の生息に考慮した小売業スコアカード)」で Whole Foods は米国大手小売業者で第 2 位にランクされました。

Whole Foods は地域社会と環境への配慮を会社のスローガンとし、環境フットプリントの削減、社会や環境に配慮した商品の調達、地域社会の強化などの主要な取り組みについて最新情報を発表し、重ねて人々と地球を豊かにするための取り組みも詳しく紹介しています



このレポートは、Whole Foods が環境管理を行う農家と土地所有者 に財政的支援を行う新しい農業環境計画としての環境スチュワードシップ、商品調達、地域貢献の目標に対する進捗状況等、5つの主要なイニシアチブに焦点を当てて説明をしています。

- ① 店舗での食品廃棄物を最小限に抑え、生活に困窮している地域社会の人々に貢献するプログラムやパートナーシップを提供する。
- ② 店舗で代替エネルギーを推進し、消費者の環境負荷低減を支援する。
- ③ フェアトレードの一環である Sourced for Good プログラムを実施し、消費者が南半球等出身の労働者や地域社会、環境を支援する商品を簡単に識別できるようにする。
- ④ 地元生産者貸付プログラムを通して地元産の商品を調達し、地元サプライヤーを支援する。
- ⑤ 再生農業を支援する。

Whole Foods の CSR 担当副社長ケイトリン・レイバート氏は、「地域社会や環境への配慮は当社の企業としての基本理念の1つで、今回は持続的な取り組みとして Whole Foods が行っている幾つかの方法に焦点を当てています。ハイライトは 2021 年にホールフーズが約 3000 万食を食料救済・再分配プログラムに寄付し、Sourced for Good プログラムを通じて 12 カ国の数多くのコミュニティに何百万ドルも資金を創出し、「Local Producer Loan Program」を通じて地元や小規模また新興の生産者に 53 万 5,000 ドル以上の資金を提供しました。Whole Foods は Friends of the Earth の Bee-Friendly Retailer Scorecard で高評価され、同時に食品および飲料のサプライチェーンにおける農薬と花粉交配者の保護に関係する米国内の食品小売業者 25 社から選ばれてランクされました。2025 年までにオーガニック製品を拡大し、総売上高の 15% を目標とする Friends of the Earth のリクエストに応える 2 つの食品小売業者のうちの 1 つに弊社は選ばれました。」と述べました。

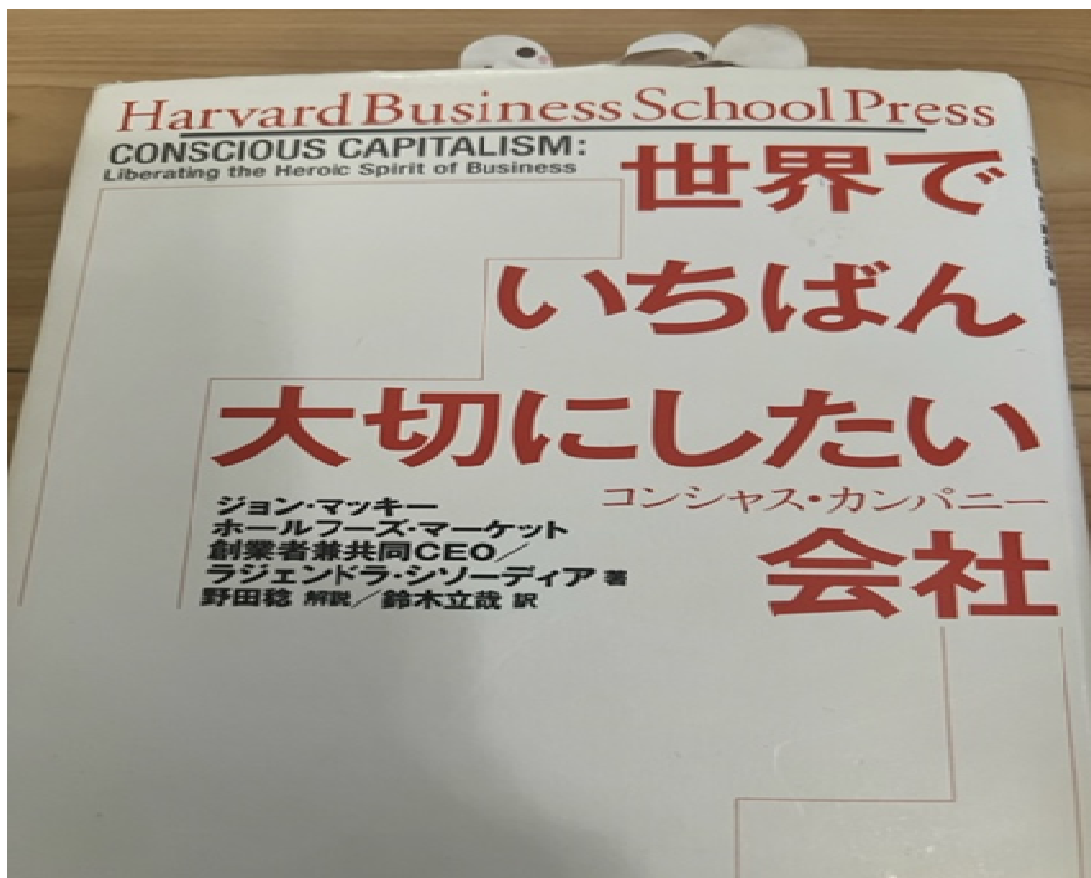


Whole Foods 創業者兼 CEO であるジョン・マッキー氏は「今回は、Whole Foods にとってまたとない画期的な出来事で環境負荷の低減、環境に配慮した製品調達、コミュニティの強化に対する当社の継続的取り組みを支える重要なイニシアティブについて報告するものです。」と述べています。

マッキー氏は本年度の9月1日付でCEOを退任し、後任としてCOOのジェイソン・ビュッヘル氏が就任します。

同社はProgressive Grocerが2021年に発表した米国の食品・消耗品小売業者のトップリスト「The PG 100」で26位を獲得し、親会社であるAmazonはPGのリストで2位を獲得しています。

今年Whole Foodsを去るマッキー氏が、今から10年前のクリスマスに米国で出版した著書は、『Conscious Capitalism(邦題：世界でいちばん大切にしたい企業)』でした。



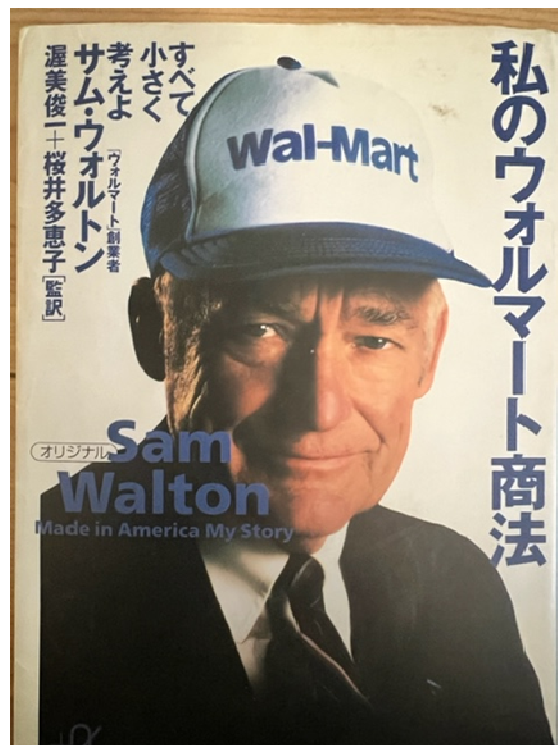
自らの利益や価値を生み出す傲慢なイメージである Capitalism(資本主義)という言葉你敢えて使用しながら、Conscious(思慮深い)というワードも加え、人々の暮らしや環境に配慮しつつ成長していく『共存共栄』な企業が大切とされるべきである という意味を含めたタイトルです。



内容は Whole Foods だけではなく、企業の利益や社会や環境を注視し成長する注目企業を異業種間でも紹介しています。

マッキー氏がステークホルダーと呼んでいる消費者、投資家、サプライヤーや従業員や企業での失敗談や成功体験のエピソードを取り混ぜ、時にはリーダーとしての理想や思考なども綴り、誰にとっても健康的で幸せな社会を生み出すための企業を単なる夢物語ではなく、その実現化に向け Whole Foods が成し遂げる事を主張しています。

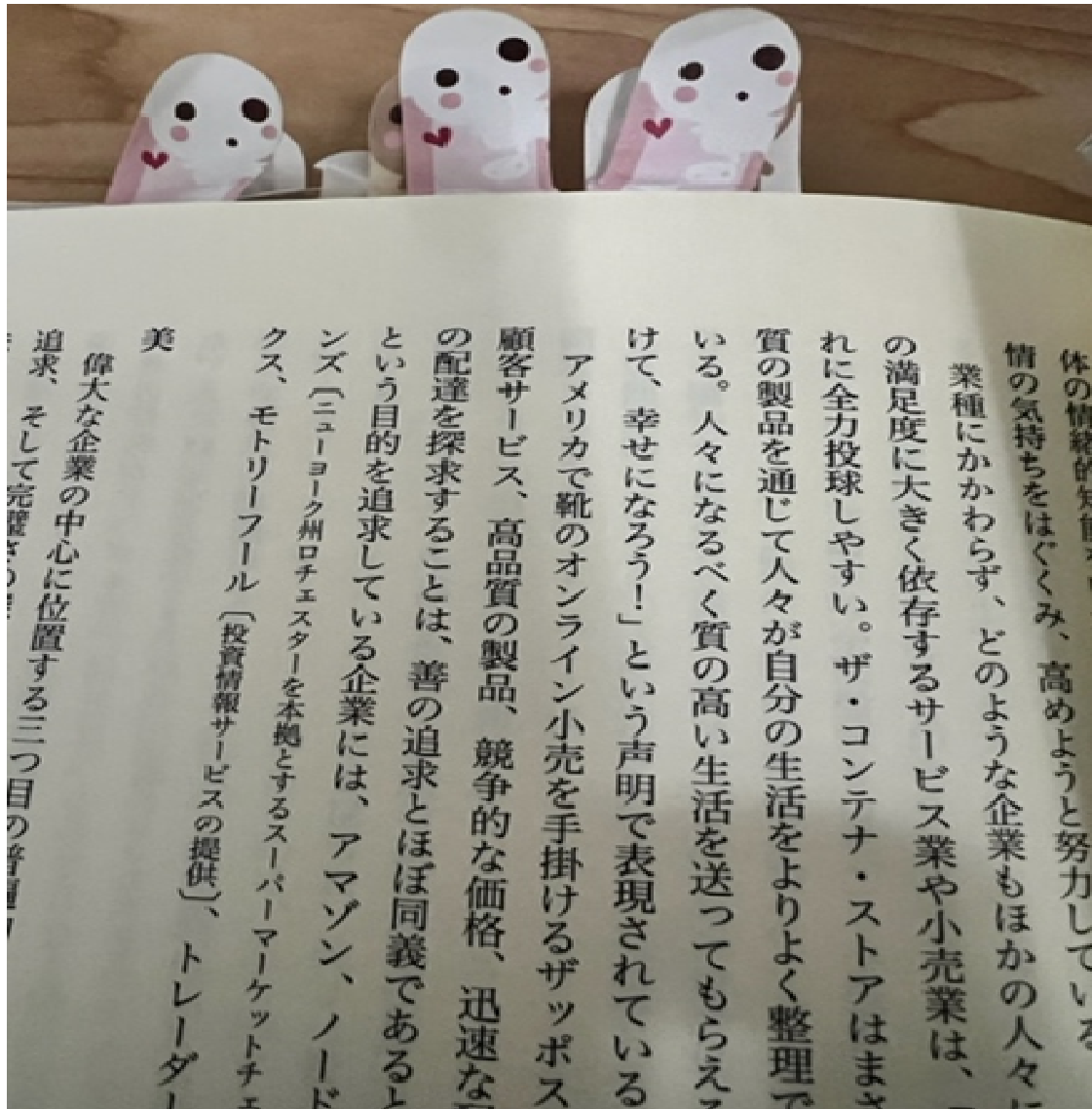
全体的にとっても読みやすいので、米國小売業について勉強したい方々には Walmart 創業者が生前に書かれた『Sam Walton, made in America(私のウォールマート商法・すべて小さく考えよ)』に並ぶおすすめの本です。



今回レポートを書きながら数年ぶりに本棚から『Conscious Capitalism』を取り出しました。

この本を最初に読んだのは 8 年前に旅した屋久島から米国へ戻る機内でした。旅の記念に購入した屋久島のイメージでアニメ化された "もののけ姫" に登場する象徴的な物体なコダマが付いた長細い付箋を全て使い切る位、気になるページに貼り付けながら没頭して読みました。

もののけ姫を語る上で欠かすことのできないこの“コダマ”は、本来は“木霊”と書かれ、木の精霊という意味もあり、歴史的には古事記の中でも登場しています。



もののけ姫のストーリーで人々は日々の暮らしの為、豊かな森の木をどんどん伐採し、森の自然を守ろうとする主役の少女を始めとした様々な森の生き物と熾烈な戦いを繰り返しました。

最終的に伐採が進み、人々が住んでいた場所も森も壊滅的に破壊されるといった悲しい結末でしたが、互いの事情や置かれている立場を理解し、乗り越えた主

役の二人は最後に心を通わせ、人々の暮らしも守りながら自然との共存を目指しました。

この世界を維持、持続させるために**強い意思**を持つことが重要であり、同時に希望を感じさせるエンディングでもありました。

非常に高い理想で、困難であるとしても誰かがやらなければならない状態に現在の世界は直面していると思います。

グローバルに SDG's が叫ばれる昨今、Whole Foods 創業者のマッキー氏を始めとする小売業が、今後も率先して社会や環境に『自然と共存する』意思を貫いていく事を期待します。

